

知事会合(8月3日) 中間報告

ふるさと希望指数(LHI: Local Hope Index)について

自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク
ふるさと希望指数(LHI)研究プロジェクト

リーダー県: 福井県

青森県、山形県、石川県、山梨県、長野県、
奈良県、鳥取県、島根県、高知県、熊本県

1 概 説

(1)ふるさと希望指数(LHI)の概要	2
(2)ふるさと希望指数(LHI)の構成	3
(3)ふるさと希望指数(LHI)の研究方法	4
①東京大学社会科学研究所の「希望学研究」の知見の活用		
②希望の意識調査(アンケート)の実施		
③統計指標の分析による「ふるさと希望指数(LHI)」の作成		
(4)東京大学社会科学研究所「希望学」研究	5
(5)希望の意識調査(アンケート)の概要	6

2 詳 説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果	7
(2)ふるさと希望指数(LHI)の内容	23
(3)ふるさと希望指数(LHI) ～参考統計～	29

3 ふるさと希望指数(LHI)による政策イノベーション	36
-----------------------------	-------	----

4 希望の『政策バンク』(仮称)	37
------------------	-------	----

ふるさと希望指数(LHI)の策定について

2011年3月11日に三陸沖を震源とする東日本大震災が発生しました。この地震によって、多くの方々の尊い命が失われ、家族、住宅、仕事など人々の生活の基盤が奪われました。しかし、このような困難な状況下においても、人々は懸命に前を向き支え合って復興への道を歩んでいます。そして、被災者をはじめ多くの人たちが、さまざまな場面で「希望」を語り、あきらめることなく行動を起こしています。

東京大学社会科学研究所を中心とする学際研究「希望学」は、「希望」を「行動によって何かを実現しようとする願望」であると定義しています。また、「希望」は与えられるものではなく、つくるものであり、行動を通して他者と共有されるとしています。

グローバル化や人口減少、超高齢化が進展する中で、日本の活力を高めることを目指す私たちは、今や「希望」を単なる理念から政策の課題に進歩させなければなりません。ふるさと希望指数(LHI)は、現在の満足を表す「幸福」の視点を超え、「希望」を現実の政策目標とするため、地方が協力してつくり上げたものです。

この指数の特徴は2つあります。第一に、「希望」につながる5つの分野、分野ごとに4つの要素を抽出したものであること。第二に、人々の行動と結び付いた要素を選んでいるところです。人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかは、全国で行った約4,000のアンケートで検証しています。

人々が「希望」を育み、広げていくことが、ふるさとに対する自信と誇りにつながっていきます。そして、人々が、「希望」を持ってチャレンジし続けることにより、世代をつなぐ「希望」が生まれ、活力に満ちた未来を実現することになると考えています。ふるさと希望指数(LHI)を活用することにより、人々がふるさと(地方)の良さを再認識し、「希望」につながる「行動」が促進されることを期待しています。

策定趣旨

現在の満足度を示す「幸福」ではなく、人々が将来や次の世代が良くなることを願う「希望」を高めるため、「希望」につながる要素を抽出した「ふるさと希望指数(LHI:Local Hope Index)を策定

「希望」とは …… 将来の実現を願うこと 「幸福」とは …… 現在の満足のこと

ふるさと希望指数(LHI)のポイント

- 「働く」、「楽しむ」、「保つ」、「向上する」、「助け合う」など個人の行動を重視した「行動重視型指数」
- 人々の「希望」につながる20の要素を5つの分野から日本で初めて抽出
- 20の要素を表す統計指標を選定し、「現状」と「変化率」の2つの観点によりデータ化

ふるさと希望指数(LHI)の構成する5つの分野

- ① 仕事 … やりがいのある仕事に就き、一定水準の収入を得ることが、人々の「希望」につながる
- ② 家族 … お互いに信頼し、支え合うことのできる家族を持つことが、人々の「希望」につながる
- ③ 健康 … 子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らしていけることが、人々の「希望」につながる
- ④ 教育 … 学力や教養、社会性や挑戦力などを身につけ伸ばすことが、人々の「希望」につながる
- ⑤ 地域交流 … 地域に魅力(誇り)を感じ、社会貢献活動や地域活動などを通じて、地域や他者とのつながりを持つことが、人々の「希望」につながる

ふるさと希望指数(LHI)を構成する分野と要素

仕事

やりがいのある仕事に就き、一定水準の収入を得ることが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 就業している
- 正規の職員・従業員として働いている
- 世帯当たりの収入が高い
- 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている



家族

お互いに信頼し、支え合うことのできる家族を持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 結婚して新しい家族を持つ
- 子どもを持つ
- 家族でコミュニケーションがとれている
- 夫婦が共に働く



健康

子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らしていけることが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 病気やけがなどがなく健康である
- 健康に長生きできる
- 健康の維持に努めている
- 子どもの基礎体力が高く元気である

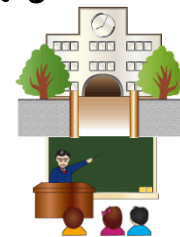


教育

学力や教養、社会性や挑戦力などを身につけ伸ばすことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 子どもの学力が高い
- 子どもの道徳心や社会性が高い
- 子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している
- 大学等の高等教育機関で学ぶ



地域・交流

地域に魅力(誇り)を感じ、社会貢献活動や地域活動などを通じて、地域や他者とのつながりを持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 社会貢献活動に参加している
- 子どもが地域行事に参加している
- 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している
- 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である



1 概説

(3)ふるさと希望指数(LHI)の研究手法

「ふるさと希望指数(LHI)」は、東京大学社会科学研究所の知見を踏まえ、独自に大規模なアンケート調査を実施した上で、統計指標を分析する手順、方法で研究を進めました。

① 東京大学社会科学研究所の「希望学」研究の知見の活用

- 東京大学社会科学研究所では、「希望」とは何か、どのような社会や地域に「希望」は生まれるのかなどについて、様々な学問分野の専門家が地域における「希望」の調査を実施している。(福井県と共同研究中)
- 東京大学社会科学研究所が、どのような属性の人が「希望」を持ちやすいかについて研究結果を示していることから、「ふるさと希望指数(LHI)」を構成する分野を選定する際に知見を活用

② 希望の意識調査(アンケート)の実施

- 東京大学社会科学研究所「希望学」の知見より得られた5分野を中心に、人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを調査するため、アンケートを以下の観点で実施
 - ①個人の属性(仕事の有無、収入、家族構成など)と「希望」の有無との相関関係を分析することにより、「希望」につながる5つの分野・要素の妥当性を検証(客観的分析)
 - ②個人の意識(「希望」を持つために重要と考えている要素)を分析し、「希望」につながる5つの分野・要素の妥当性を検証(主観的分析)

③ 統計指標の分析による「ふるさと希望指数(LHI)」の作成

- 希望の意識調査を踏まえ、人々の「希望」につながる要素を抽出。その内容を数値で示していると考えられる統計指標を、既存統計の中から選定(参考統計の選定)
- 参考統計を「現状」および「変化率」の2つの観点によりデータ化

1 概説

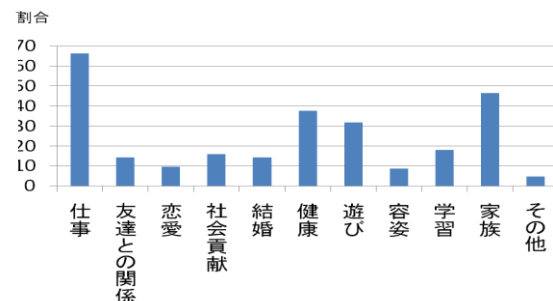
(4)東京大学社会科学研究所 「希望学」研究

「希望学」は、東京大学社会科学研究所が2005年から研究を開始した新しい学問の領域で、「希望を社会科学する」を合い言葉に、希望と社会の相互関係について考察をしています。今回の共同研究においては、「希望学」研究で明らかになった「希望」につながる5分野をベースに研究を進めました。

東京大学社会科学研究所の「希望学」研究の知見

- ①仕事を持ち一定水準以上の収入がある人ほど、希望を持ちやすい ⇒「仕事」
- ②家族からの期待・信頼を受けている子どもほど、希望を持ちやすい ⇒「家族」
- ③健康状態が良好な人ほど、希望を持ちやすい ⇒「健康」
- ④大学等に進学した人ほど、希望を持ちやすい ⇒「教育」
- ⑤地域に誇りを感じている人ほど、希望を持ちやすい ⇒「地域。交流」

人々の希望の内容(複数回答)



資料:「仕事と生活に関するアンケート調査」東京大学社会科学研究所 希望学プロジェクト

「希望学」の言葉

- 「『希望』と『幸福』とは異なる。希望が未来についての表象であるのに対して、幸福は現在についての表象であり、希望が変化を求めるものであるのに対して、幸福は持続を求めるものである。」
- 「『Hope is a wish for something to come true by action』(希望とは、具体的な『何か(something)』を『行動(action)』によって『実現(come true)』しようとする『願望(wish)』である。)」
- 「希望は叶えることだけに意味があるのではなく、むしろ困難を経験しつつ『希望を育てていく』ことこそ、本当の意味がある。」
- 「希望とはあくまで一人ひとりが抱くものでありながら、他方で、希望は他者と共有され社会的な希望となりうるし、また各個人が希望を抱くことを可能とする社会を構想することにもつながる。」

『東京大学社会科学研究所 希望学プロジェクト「希望は終わらない」』パンフレットから抜粋

希望の意識調査(アンケート)

■目的

人々の「希望」がどのような要素から生まれるのか調査するため、以下の観点でアンケートを実施

- ①個人の属性(仕事の有無、収入、家族構成など)と「希望」の有無との相関関係を分析することにより、「希望」につながる5つの分野・要素の妥当性を検証(客観的分析)
- ②個人の意識(「希望」を持つために重要と考えている要素)を分析し、「希望」につながる5つの分野・要素の妥当性を検証(主観的分析)

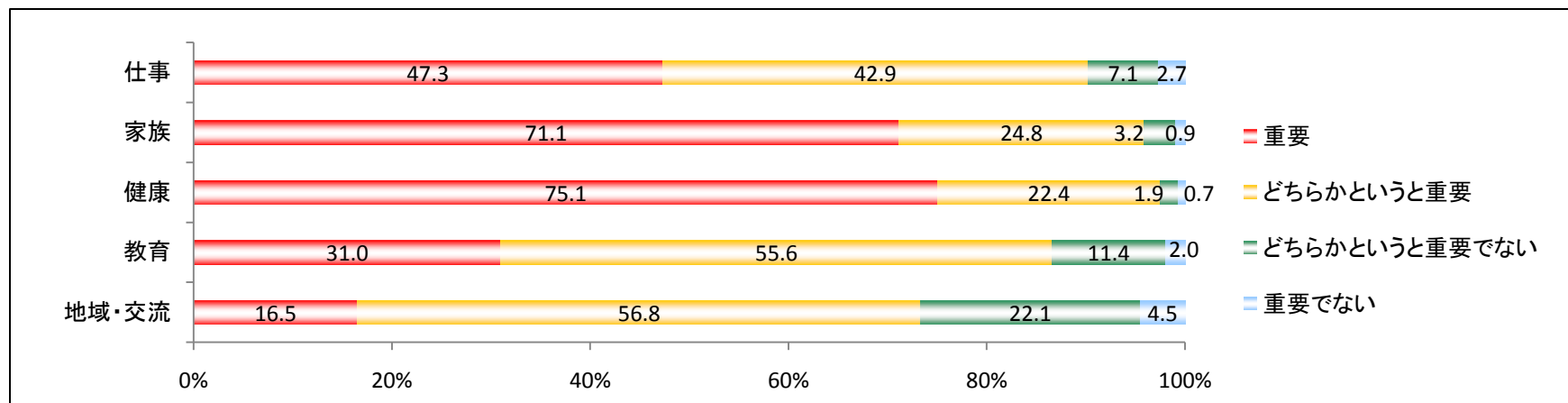
■対象

「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」に参加する11県および三大都市(東京都、愛知県、大阪府)に居住する10代、20代、30代、40代、50代、60歳以上の男女

■サンプル数 11県:3,035サンプル、3都府県:900サンプル 合計:3,935サンプル

■調査時期 平成23年6月

■アンケートの結果(人々が希望を持つための分野ごとの重要度【全体】)



希望の意識調査(アンケート)の結果

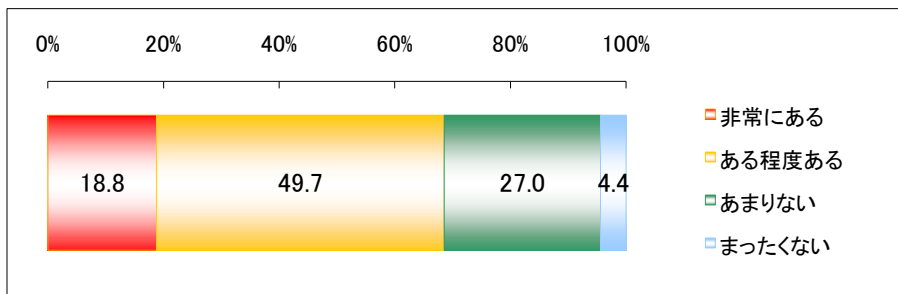
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

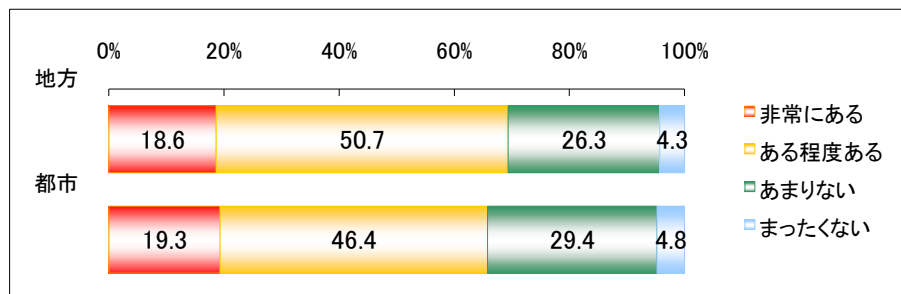
① 全体結果(1/2)

- ・ 回答者全体の約7割が何らかの希望を有しており、地方と都市では大きな違いは見られない。
- ・ 人々の希望の内容(第一順位)は、仕事(25.6%)、家族(21.0%)、遊び(余暇)(15.1%)、健康(7.1%)であった。
- ・ 人々の希望の内容(複数回答)は、仕事(41.8%)、遊び(余暇)(38.9%)、家族(37.6%)、健康(29.9%)、友人との関係(25.2%)、学習(19.2%)であった。

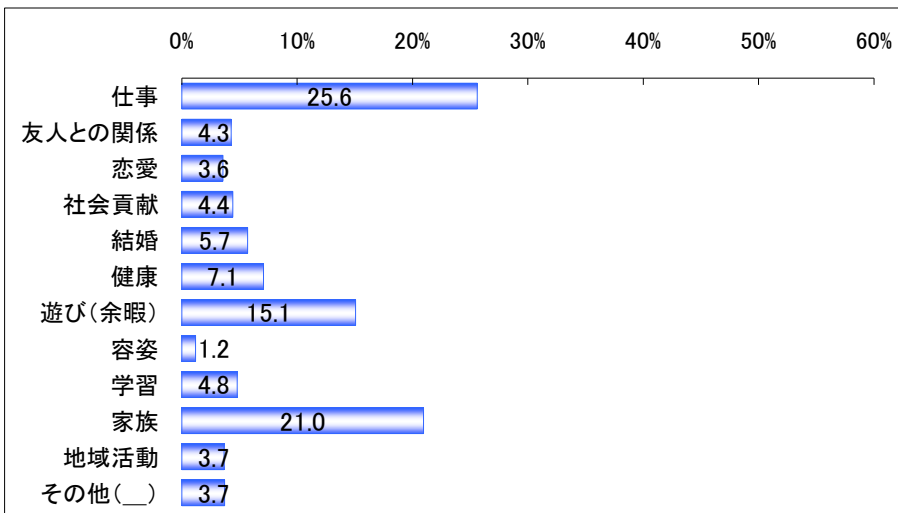
<人々の希望の有無>【全体】



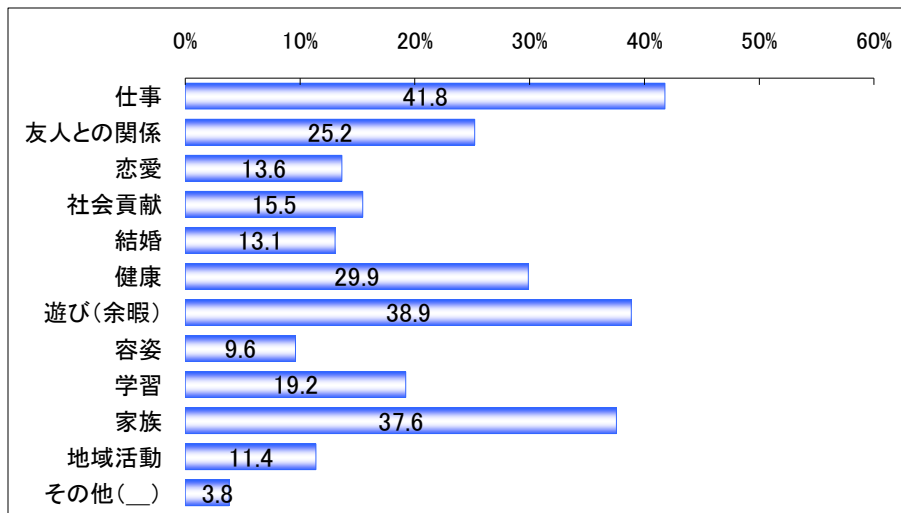
<人々の希望の有無>【地方と三大都市の比較】



<人々の希望の内容(第一順位)>【地方】



<人々の希望の内容(複数回答)>【地方】



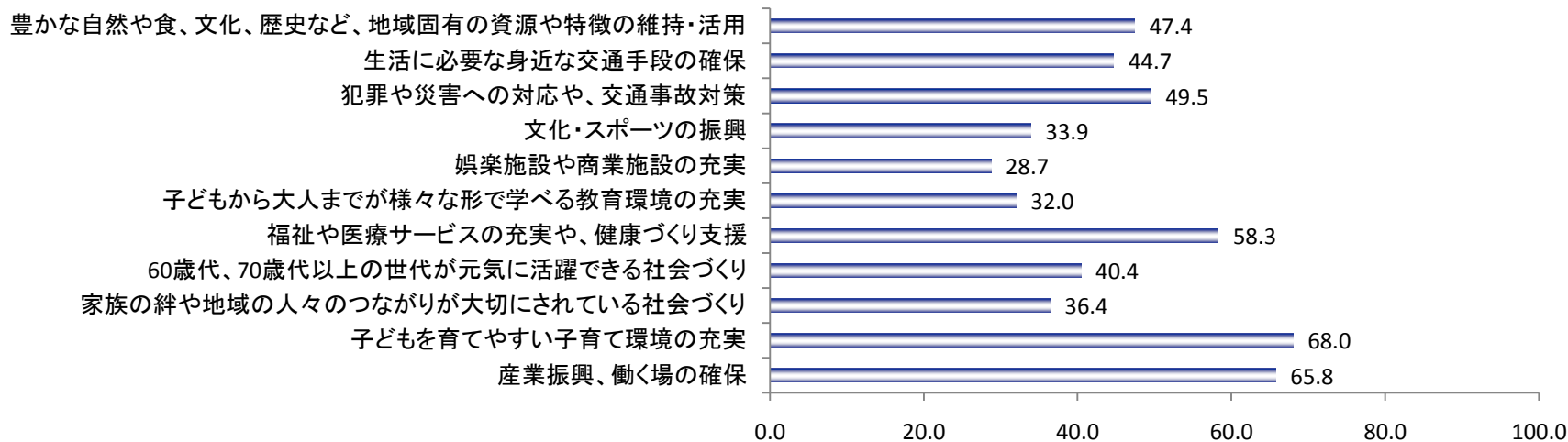
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

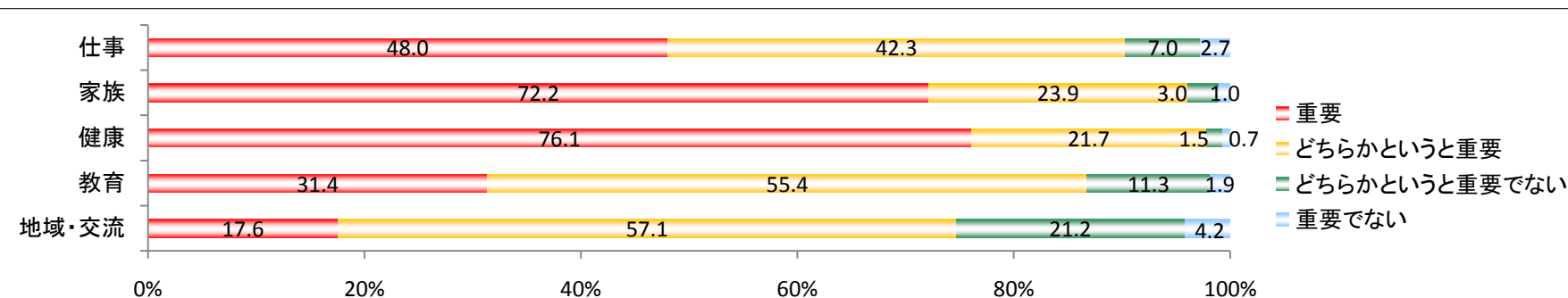
① 全体結果(2/2)

- ・ 人々が希望を持つために行政に求めているもの(複数回答)は、子育て環境の充実(68.0%)、産業振興(65.8%)、福祉・医療サービスの充実(58.3%)、犯罪・交通事故対策(49.5%)、地域固有の資源の維持・活用(47.4%)、交通手段の確保(44.7%)、高齢者が活躍できる社会づくり(40.4%)であった。
- ・ 人々が希望を持つための分野ごとの重要度は、健康(97.8%)、家族(96.1%)、仕事(90.3%)、教育(86.8%)、地域・交流(53.4%)であった。

<人々が希望を持つために行政に求める内容>【地方】



<人々が希望を持つための重要度(分野ごと)>【地方】



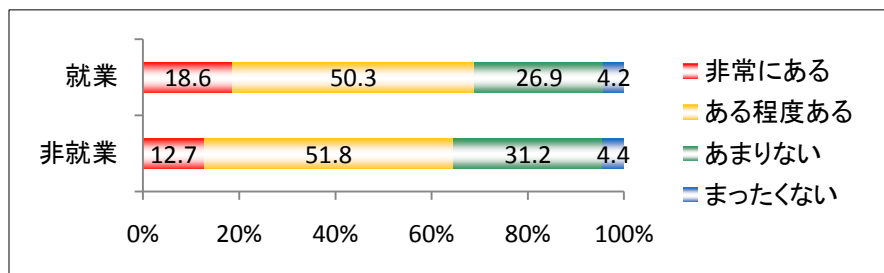
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

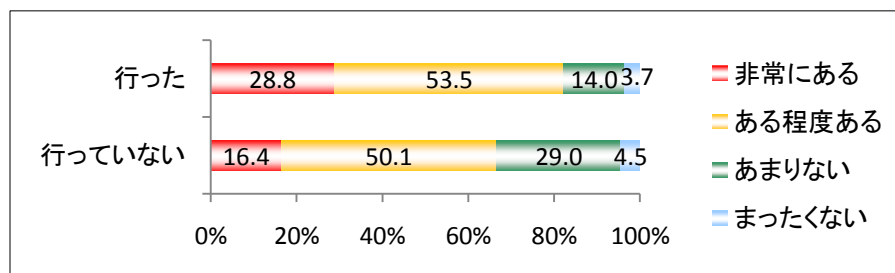
②【仕事】(客観的分析)

- ・ 就業している人の68.9%が希望を持っており、就業していない人の64.5%よりも4.4ポイント割合が高い。
- ・ 職業訓練や自己啓発など仕事に関するスキルアップを行った人の82.3%が希望を持っており、行っていない人の66.5%よりも15.8ポイント割合が高い。
- ・ 世帯当たりの収入が500万円までの人は、希望の有無に大きな差は見られないが、収入が500万円以上になると希望を持つ人の割合が高くなっている。

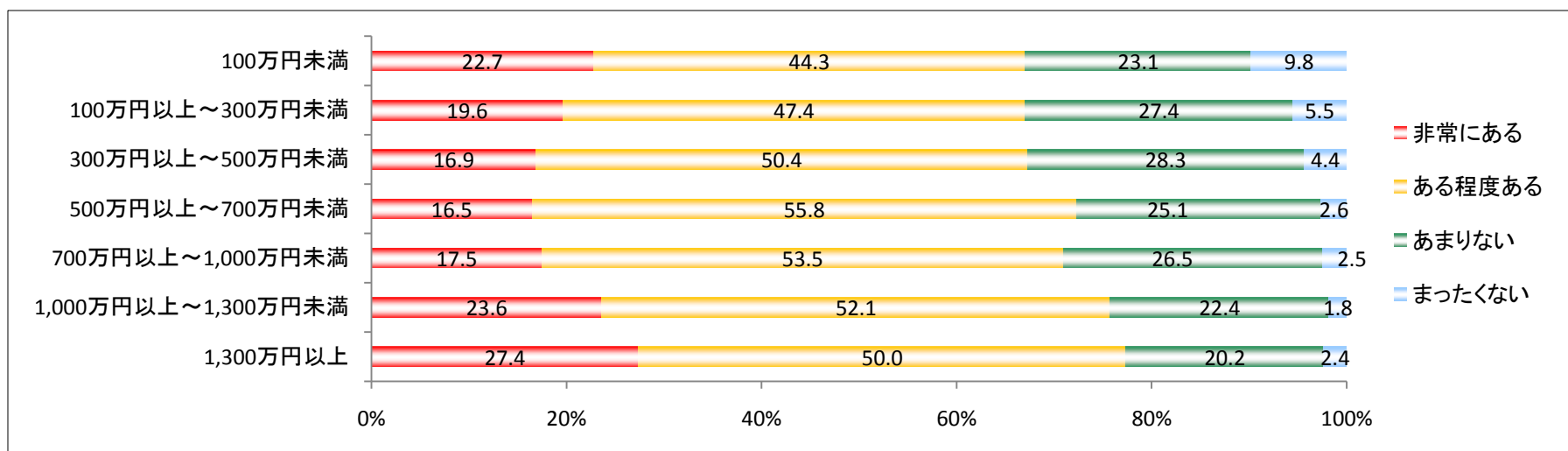
<希望と就業との関係>【地方】



<希望とスキルアップとの関係>【地方】



<希望と世帯当たり収入との関係>【地方】



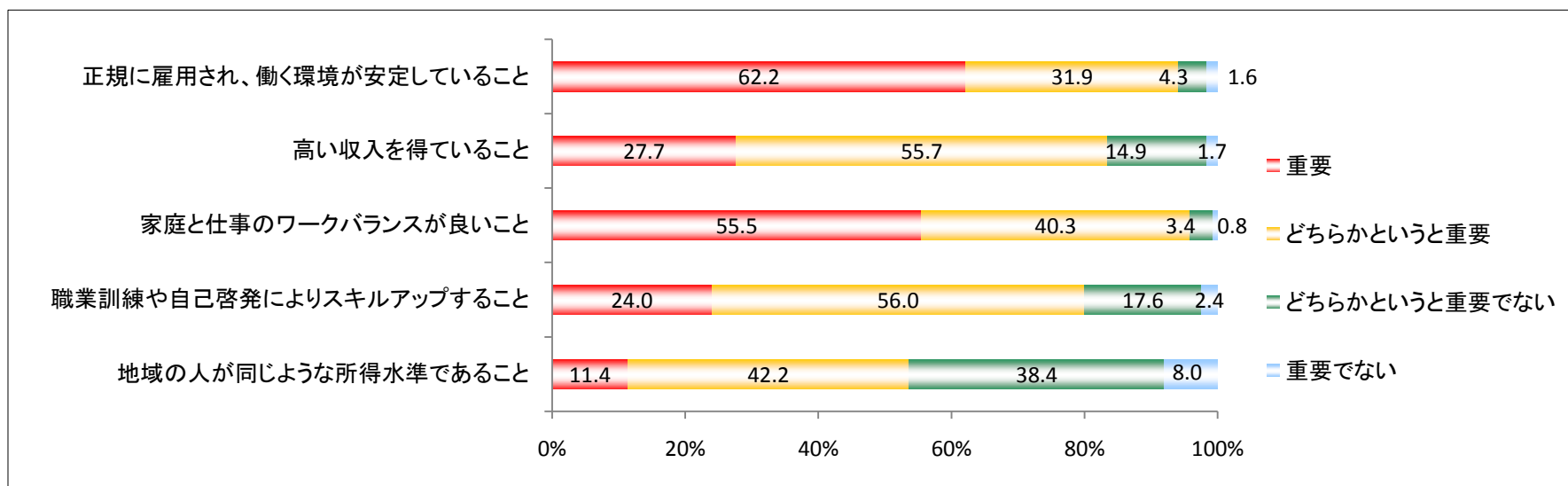
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

②【仕事】(主観的分析)

- ・人々が希望を持つために「仕事」の分野で重要と考えているのは、家庭と仕事のワークバランスが良いこと(95.8%)、正規雇用による雇用環境が安定していること(94.1%)、高い収入を得ていること(83.4%)、職業訓練や自己啓発によりスキルアップすること(80.0%)であった。

<人々が希望を持つために重要と考えていること(仕事)>【地方】



《アンケート結果からの考察》

- ・希望を持っている人のうち、約4割の人が仕事に対する希望を持っていることから、仕事は人々の希望に強く影響を及ぼしていると考えられる。
- ・客観的分析からは、一定以上の収入があり、仕事に関するスキルアップを行っている人ほど希望を持つ割合が高いことが分かる。また、主観的分析からは、人々が希望を持つためには、正規雇用者として安定的な雇用環境の下で、家庭と仕事のワークバランスを保ちながら働くことを重要と考えていることが分かる。

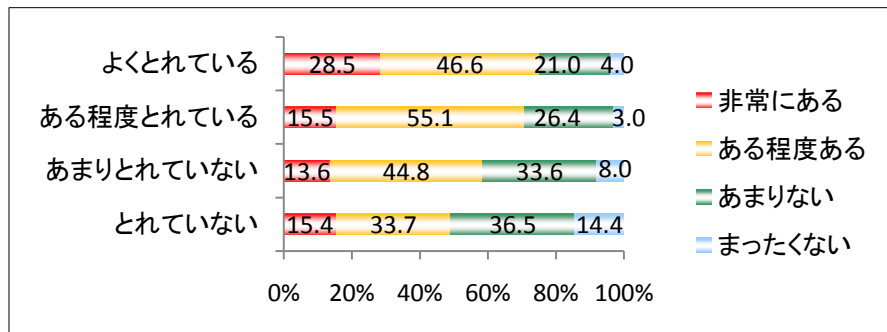
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

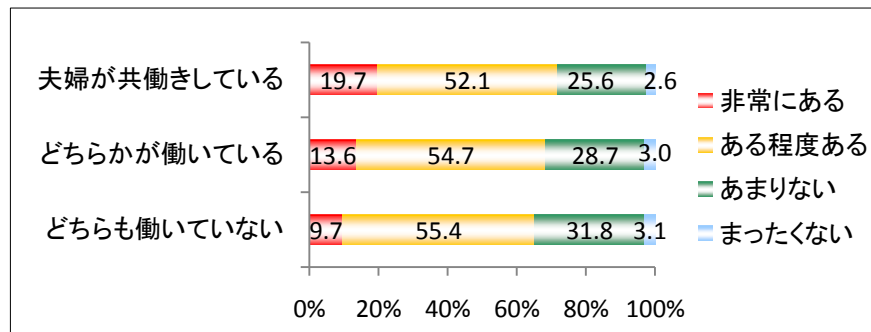
③【家族】(客観的分析)

- ・ 家族のコミュニケーションがよくとれている人の75.1%が希望を持っており、とれていない人の49.1%よりも26.0ポイント割合が高い。
- ・ 既婚者の69.0%が希望を持っており、未婚者(離婚や死別を除く)の62.1%よりも6.9ポイント割合が高い。
- ・ 子どもがいる人といない人では、子どもがいる人の方が相対的に希望を持つ割合が高いが、5人以上子どもがいる人は希望を持つ割合が低くなっている。

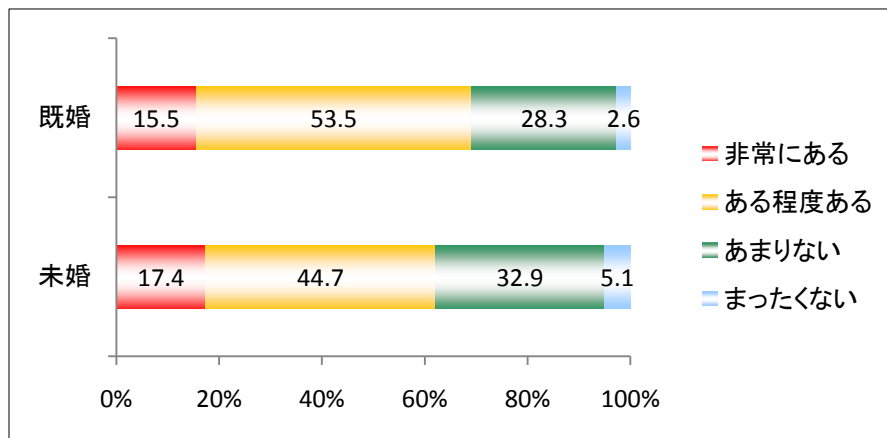
<希望と家族のコミュニケーションとの関係>【地方】



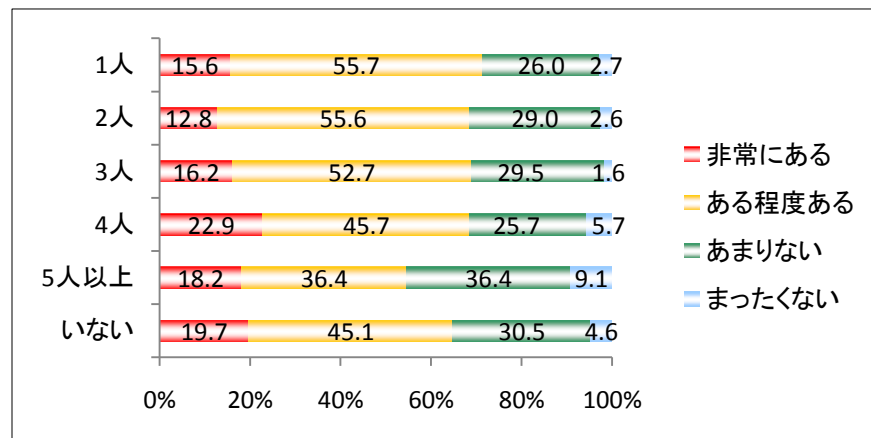
<希望と夫婦の働き方との関係>【地方】



<希望と結婚との関係>【地方】 ※30歳以上



<希望と子どもの数との関係>【地方】 ※30歳以上



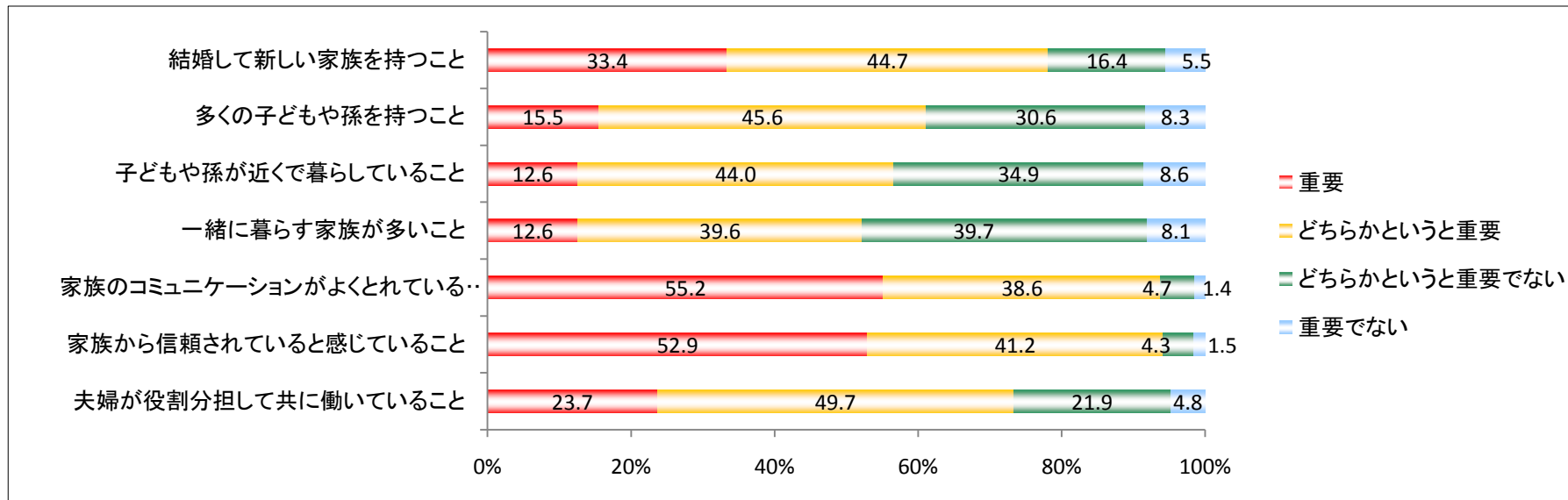
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

③【家族】(主観的分析)

・人々が希望を持つために「家族」の分野で重要と考えているのは、家族から信頼されていること(94.1%)、家族とのコミュニケーションがよくとれていること(93.8%)、結婚して新しい家族を持つこと(78.1%)、夫婦が役割分担して共に働くこと(73.4%)、多くの子どもや孫を持つこと(61.1%)、子どもや孫が近くで暮らしていること(56.6%)であった。

<人々が希望を持つために重要と考えていること(家族)>【地方】



《アンケート結果からの考察》

- ・人々が希望を持つためには、約96%の人が家族を重要と考えることから、家族は人々の希望に強く影響を及ぼしていると考えられる。
- ・客観的分析からは、結婚して子どもを持ち、家族とのコミュニケーションがよくとれている人ほど希望を持つ割合が高いことが分かる。また、主観的分析からは、人々が希望を持つためには、家族とコミュニケーションが良くとれ、家族から信頼されること、結婚して子どもを持ち、夫婦が役割分担して共に働いていることを重要と考えることが分かる。

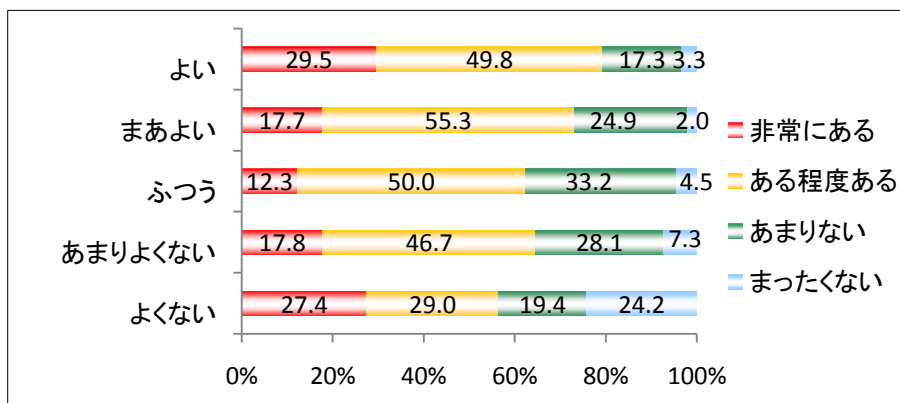
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

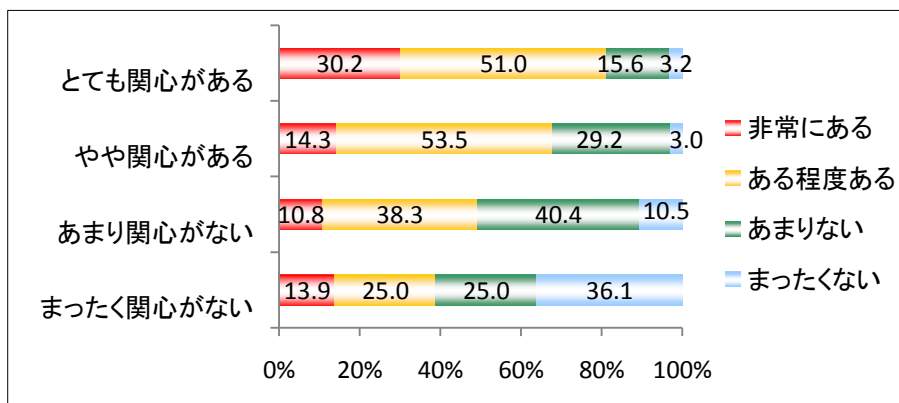
④【健康】(客観的分析)

- ・ 健康状態が良い人の79.3%が希望を持っており、良くない人の56.4%よりも22.9ポイント割合が高い。
- ・ 自分自身の健康に関心の高い人の81.2%が希望を持っており、まったく関心のない人の38.9%よりも42.3ポイント割合が高くなっている。
- ・ 何らかの健康維持活動を行っている人の7割以上が希望を持っており、何も行っていない人の55%よりも15ポイント以上割合が高い。

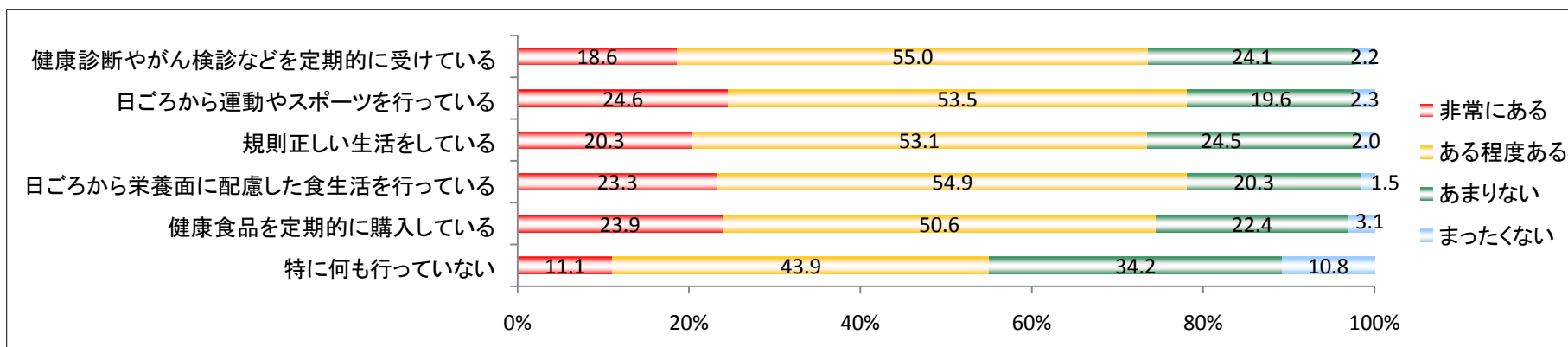
<希望と健康状態との関係>【地方】



<希望と健康への関心との関係>【地方】



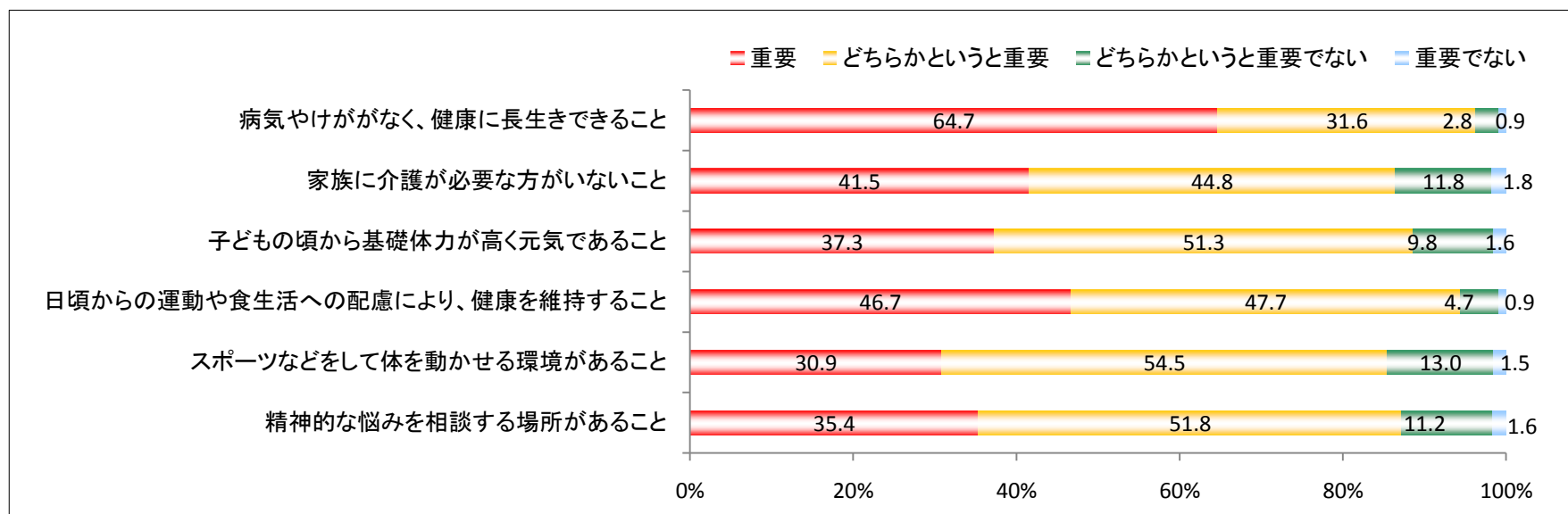
<希望と健康維持活動との関係>【地方】



④【健康】(主観的分析)

- ・人々が希望を持つために「健康」の分野で重要と考えているのは、病気などをせず健康に長生きすること(96.3%)、健康を維持すること(94.4%)、子どもの頃から基礎体力が高く元気であること(88.6%)、家族に要介護者がいないこと(86.3%)であった。

＜人々が希望を持つために重要と考えていること(健康)＞【地方】



《アンケート結果からの考察》

- ・人々が希望を持つためには、約98%の人が健康を重要と考えていることから、健康は人々の希望に強く影響を及ぼしていると考えられる。
- ・客観的分析からは、健康に関心を持って健康維持に努め、健康状態が良い人ほど希望を持つ割合が高いことが分かる。また、主観的分析からは、人々が希望を持つためには、健康を維持しながら長生きすることを重要と考えていることが分かる。

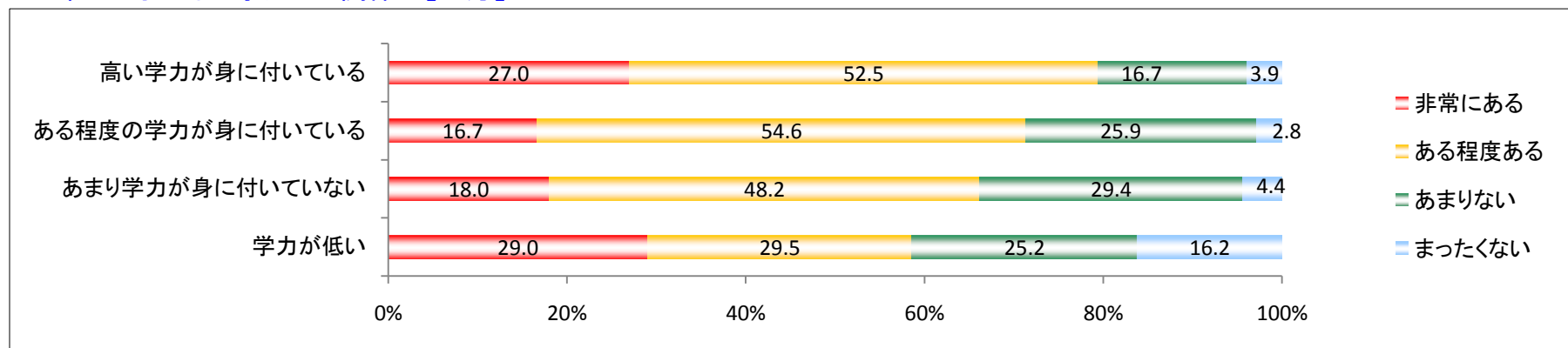
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

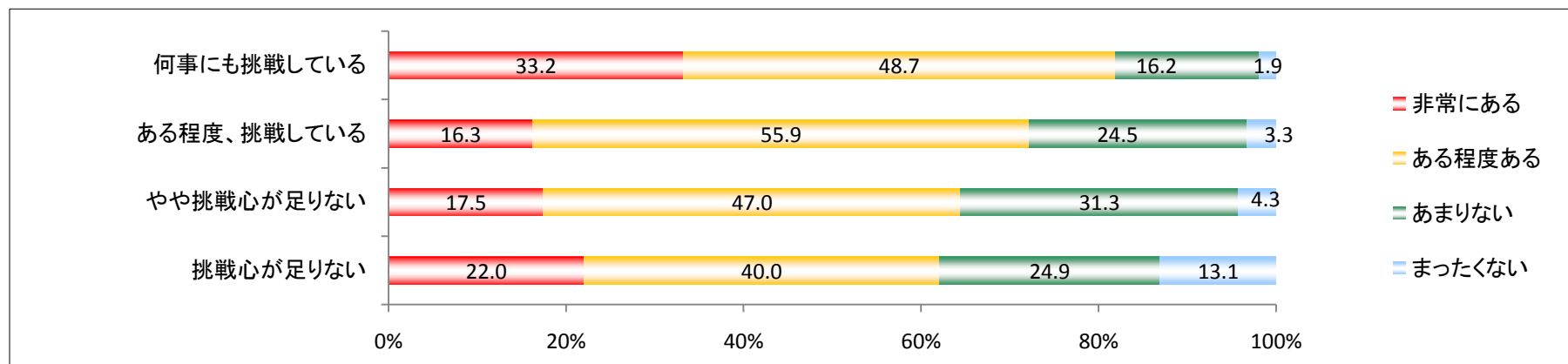
⑤【教育】(客観的分析)

- ・ 子どもが高い学力を身に付けていると感じている人の79.5%が希望を持っており、子どもの学力が低いと感じている人の58.5%よりも21.0ポイント割合が高い。
- ・ 子どもが何事にも挑戦していると感じている人の81.9%が希望を持っており、子どもの挑戦力が足りないと感じている人の62.0%よりも19.9ポイント割合が高い。

<希望と子どもの学力との関係>【地方】



<希望と子どもの挑戦力との関係>【地方】



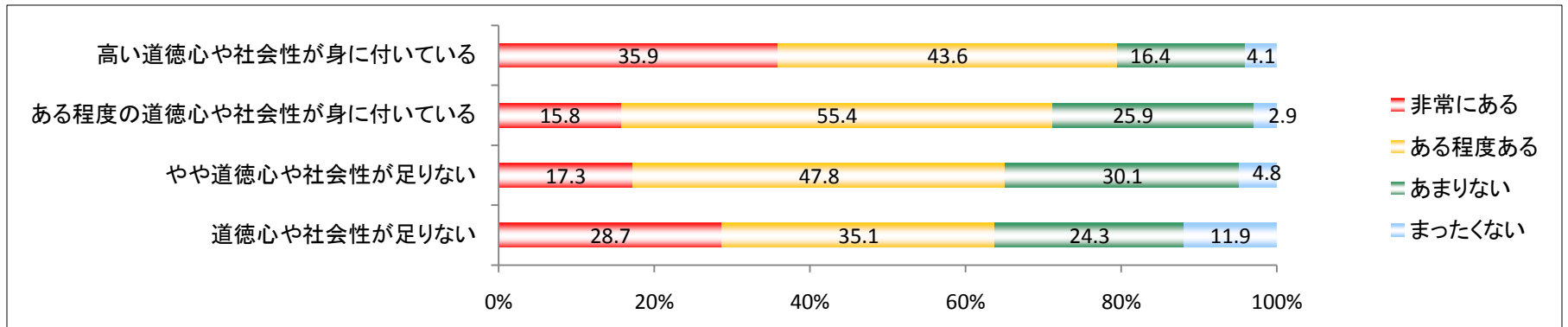
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

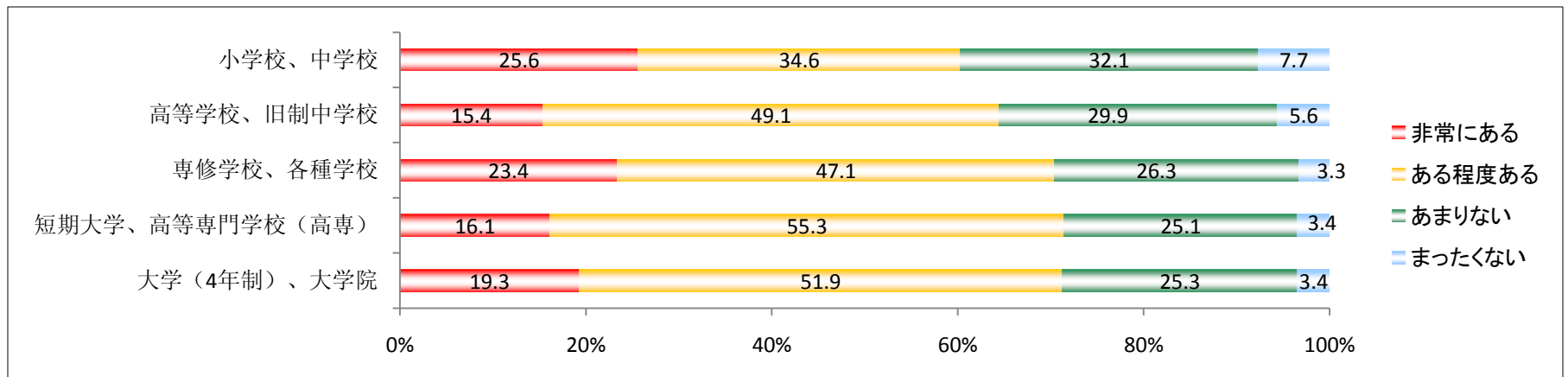
⑤【教育】(客観的分析)

- ・ 子どもが高い道徳心や社会性が身に付いていると感じている人の79.5%が希望を持っており、子どもの道徳心や社会性が足りないと感じている人の63.8%よりも15.7ポイント割合が高い。
- ・ 最終学歴が高等学校までの人よりも、高校から大学や短期大学、専修学校に進学した人ほど、希望を持つ割合が約5ポイント高い。

<希望と子どもの道徳心との関係>【地方】



<希望と最終学歴との関係>【地方】



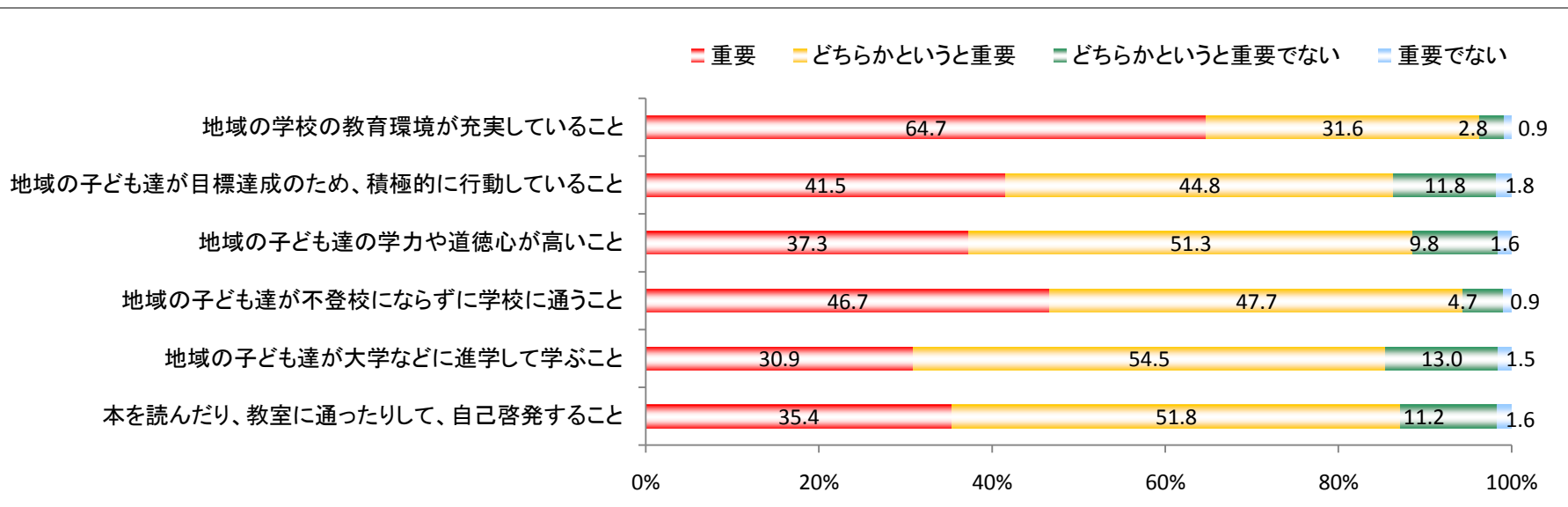
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

⑤【教育】(主観的分析)

- ・ 人々が希望を持つために「教育」の分野で重要と考えているのは、教育環境が充実していること(96.3%)、不登校にならずに学校に通うこと(94.4%)、学力や道徳心が高いこと(88.6%)、本を読んだり教室に通ったりして自己啓発すること(87.2%)、子どもが目標のために行動すること(86.3%)、大学などへの進学すること(85.4%)であった。

<人々が希望を持つために重要と考えていること(教育)>【地方】



《アンケート結果からの考察》

- ・ 希望を持っている人のうち、約4割の人が教育(学習)に対する希望を持っていることから、教育は人々の希望に影響を及ぼしていると考えられる。
- ・ 客観的分析からは、子どもの学力、道徳心や社会性、挑戦力が高いと感じている人ほど希望を持つ割合が高いことが分かる。また、主観的分析からは、人々が希望を持つためには、子どもが充実した教育環境の下、高い学力や道徳心、目標達成のための挑戦力を身に付けることを重要と考えていることが分かる。

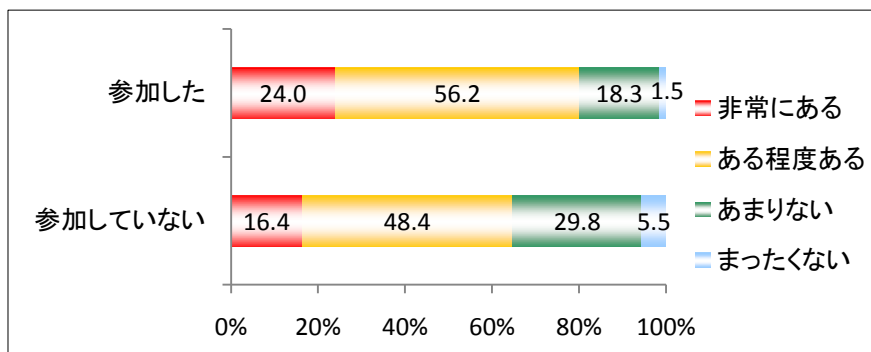
2 詳説

(1) 希望の意識調査(アンケート)の結果

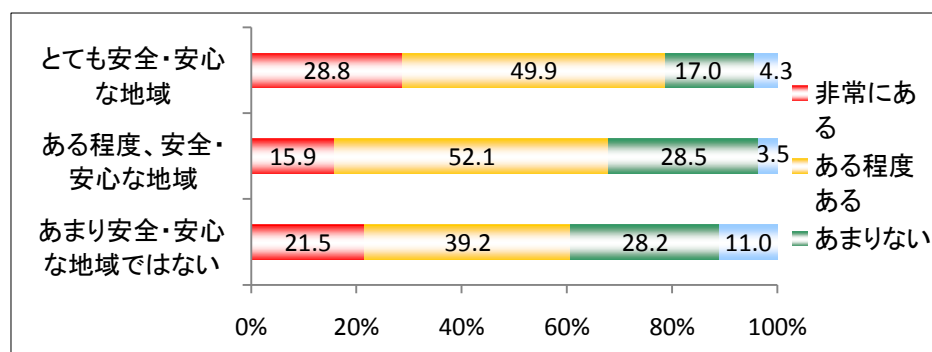
⑥【地域・交流】(客観的分析)

- ・ 地域貢献活動に参加した人の80.2%が希望を持っており、参加していない人の64.8%よりも15.4ポイント割合が高い。
- ・ 地域行事に参加した人の78.4%以上が希望を持っており、参加していない人の58.9%を大幅に上回っている。
- ・ 暮らしている地域が安全・安心と感じている人の81.6%が希望を持っており、安心・安全と感じていない人の60.7%よりも20.9ポイント割合が高い。

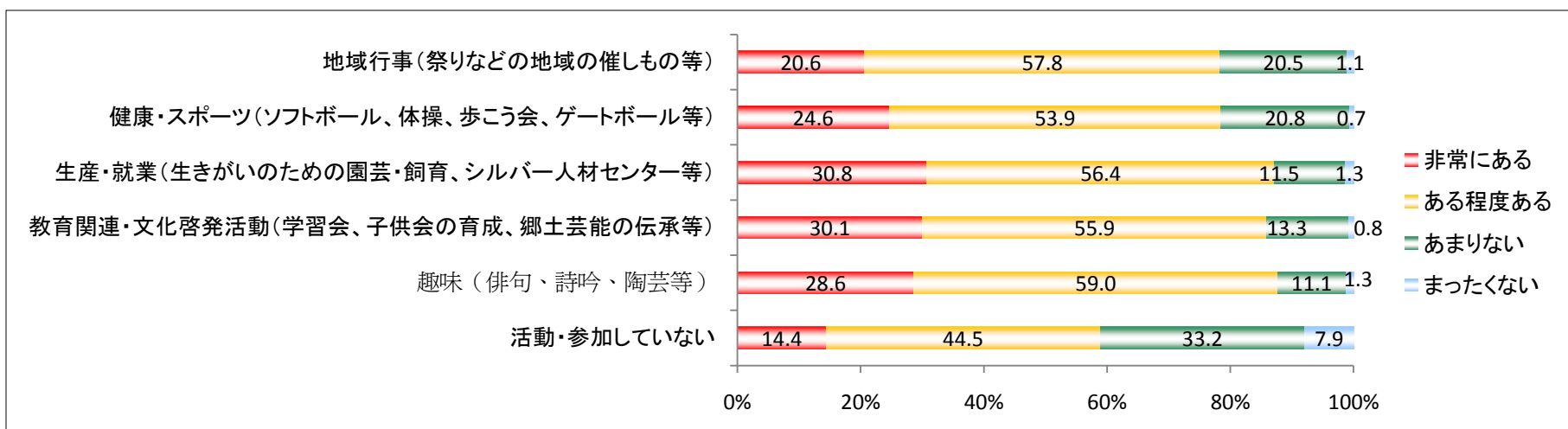
<希望と地域貢献活動への参加との関係>【地方】



<希望と地域の安全性の関係>【地方】



<希望と地域行事への参加との関係>【地方】



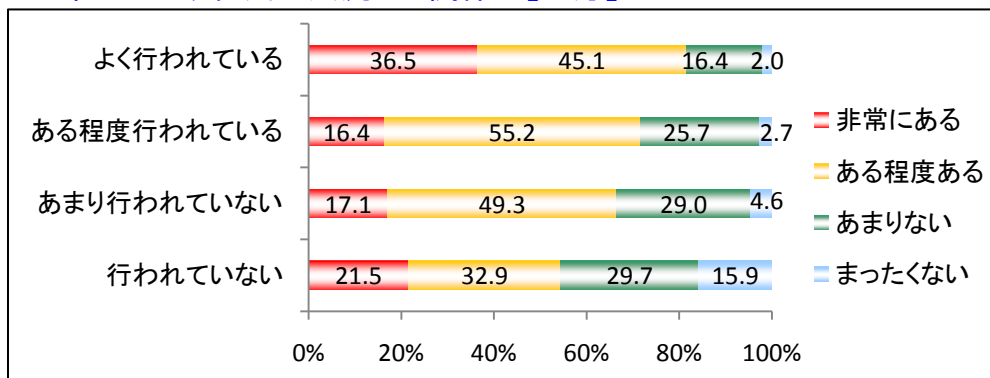
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

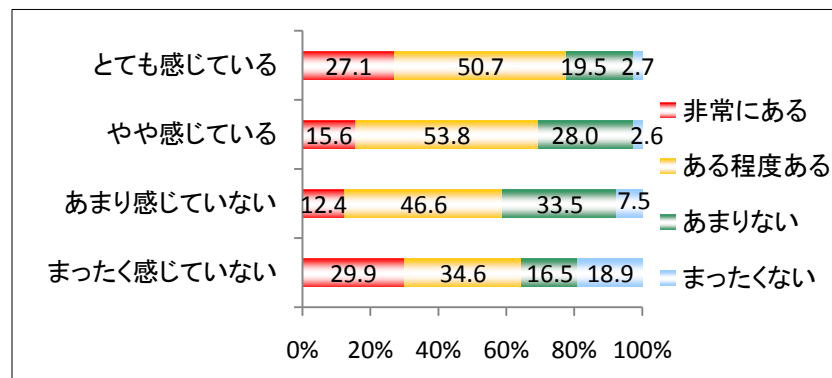
⑥【地域・交流】(客観的分析)

- ・地域の住民同士の交流が行われていると感じている人の81.6%が希望を持っており、交流が行われていないと感じている人の54.4%よりも27.2ポイント割合が高い。
- ・地域に魅力を感じている人の77.8%が希望を持っており、まったく魅力を感じていない人の64.5%よりも13.3ポイント割合が高い。なお、地域の魅力として感じていることは、豊かな自然(79.6%)、おいしい食や水に恵まれていること(68.2%)、温泉や観光名所があること(46.2%)の順であった。

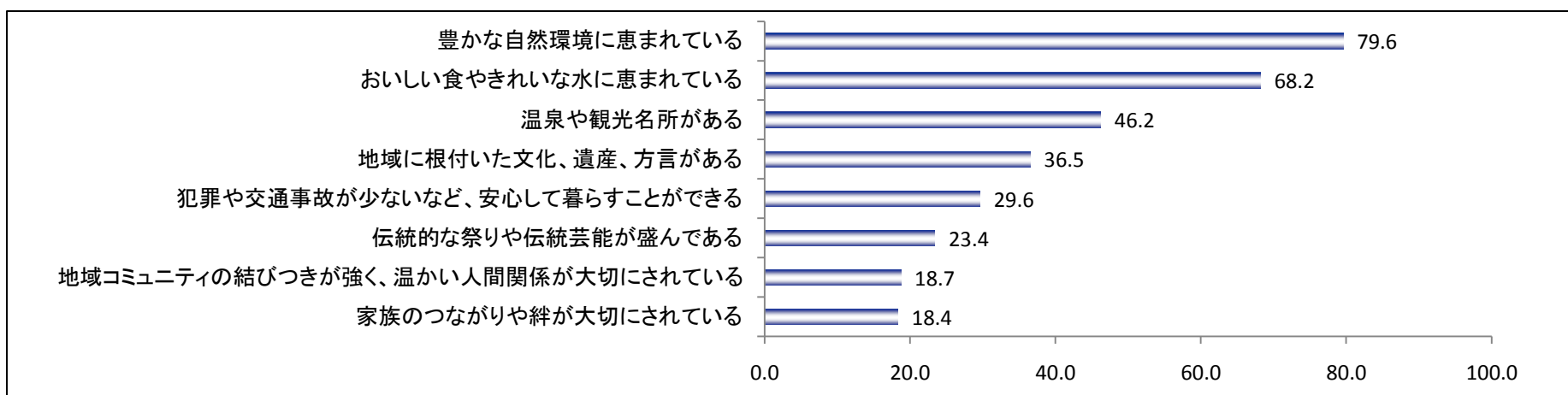
<希望と地域住民の交流との関係>【地方】



<希望と地域の魅力との関係>【地方】



<地域の魅力として感じていること>【地方】



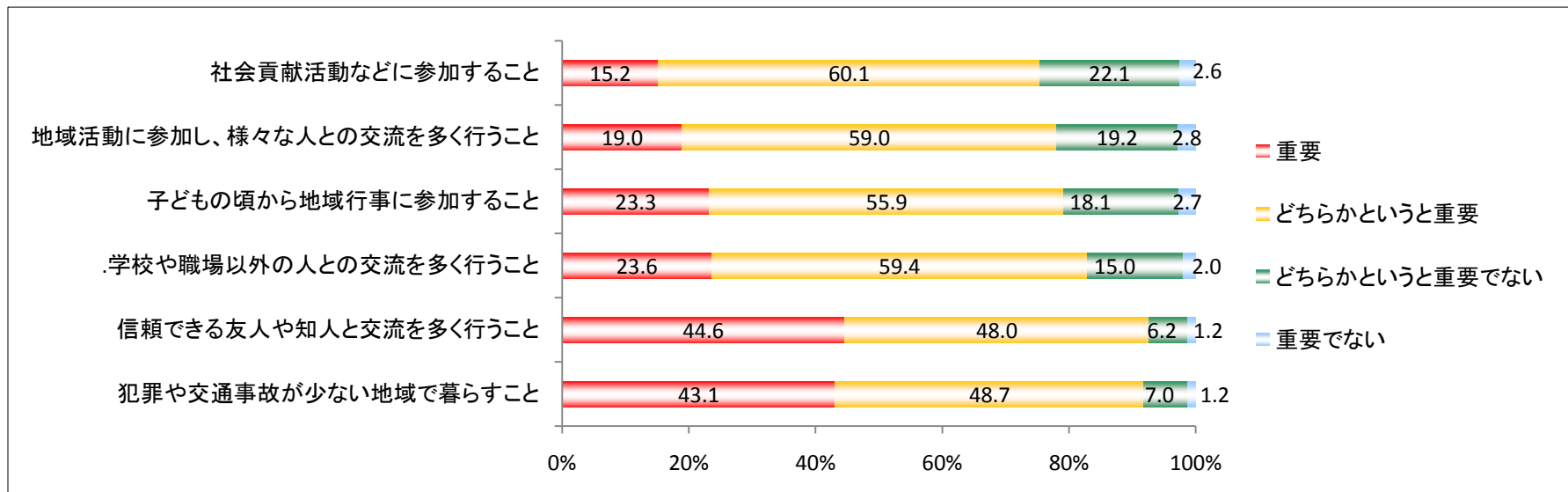
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

⑥【地域・交流】(主観的分析)

- 人々が希望を持つために「地域・交流」の分野で重要と考えているのは、信頼できる友人・知人と交流すること(92.6%)、犯罪や交通事故の少ない地域で暮らすこと(91.8%)、学校や職場以外の人と交流すること(83.0%)、子どもの頃から地域行事に参加すること(79.2%)、地域活動への参加により人と交流すること(78.0%)であった。

＜人々が希望を持つために重要と考えていること(地域・交流)＞【地方】



《アンケート結果からの考察》

- 人々が希望を持つためには、約75%の人が地域・交流を重要と考えていることから、地域・交流は人々の希望に強く影響を及ぼしていると考えられる。
- 客観的分析からは、地域に魅力を感じ、地域貢献活動や地域の行事に参加している人や、安全・安心な地域で暮らしている人ほど希望を持つ割合が高いことが分かる。また、主観的分析からは、人々が希望を持つためには、信頼できる友人や知人、学校や職場以外の人との交流が多いこと、犯罪や交通事故の少ない安全・安心な地域で暮らすことを重要と考えていることが分かる。

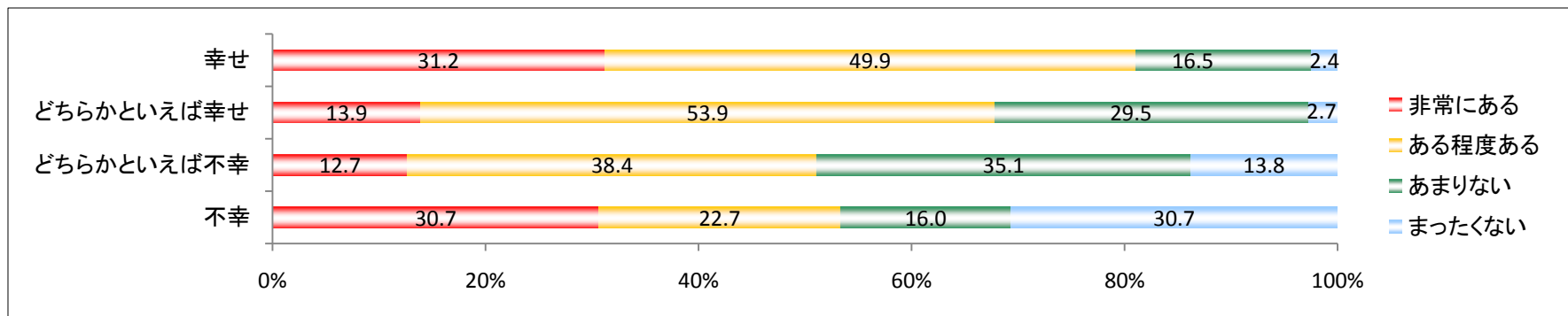
2 詳説

(1)希望の意識調査(アンケート)の結果

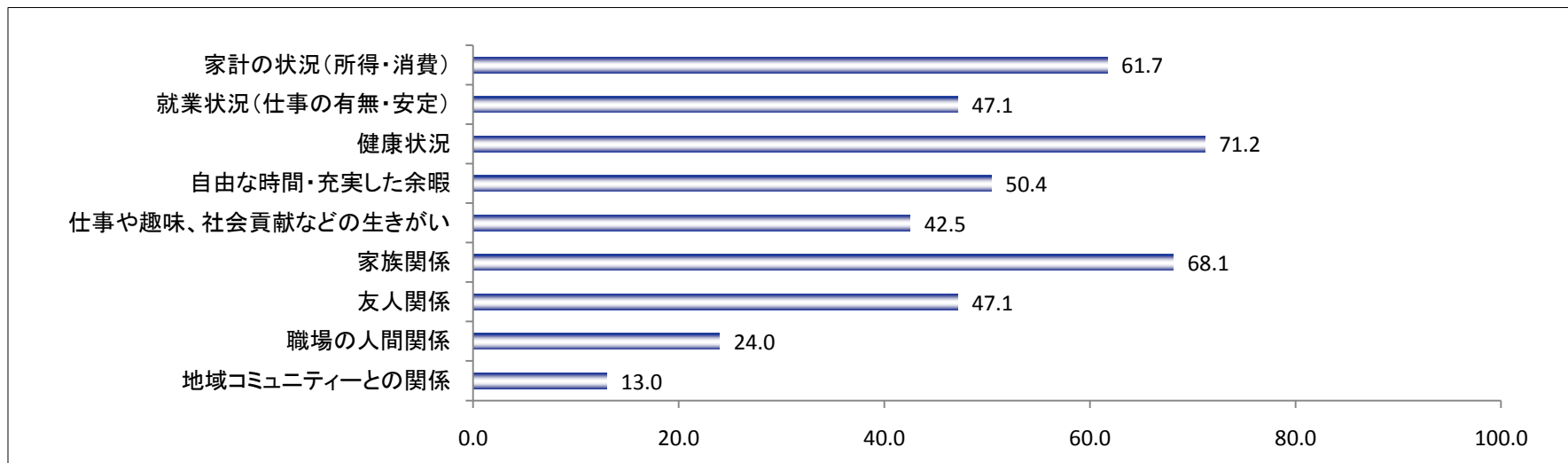
⑦「希望」と「幸福」の関係

- ・ 現在、幸せと感じている人の約8割が希望を持っているが、不幸と感じている人の希望を持っている割合は約5割であった。また、幸せと感じている人と不幸と感じている人の約3割が希望を非常に持っている。
- ・ 幸福を判断する際に、重視している項目は、健康状態(71.2%)、家族関係(68.1%)、家計の状況(61.7%)、自由な時間・余暇(50.4%)の順であった。

<希望と幸福の関係>【地方】



<幸福を判断する際に重視した項目>【地方】



ふるさと希望指数(LHI)の内容

仕事

やりがいのある仕事に就き、一定水準の収入を得ることが、人々の「希望」につながる

「仕事」に関する主な要素

- ① 就業している
- ② 正規の職員・従業員として働いている
- ③ 世帯当たりの収入が高い
- ④ 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている

「仕事」に関する主な要素を高める政策の方向性

- ・就業支援などの雇用対策
- ・雇用形態の転換促進
- ・キャリア形成や職業能力開発の支援 など

《参考統計》

- ①就業率 [算出方法:就業者数÷15歳以上人口] <労働力調査(総務省)から独自集計>
- ②正規就業者率 [算出方法:正規の職員・従業員数÷雇業者総数] <就業構造基本調査(総務省)>
- ③実収入(勤労者1世帯当たり1か月) <家計調査(総務省)>
- ④職業訓練・自己啓発実施率 [算出方法:職業訓練・自己啓発実施者数÷15歳以上人口] <就業構造基本調査(総務省)>

家族

お互いに信頼し、支え合うことのできる家族を持つことが、
人々の「希望」につながる

「家族」に関する主な要素

- ① 結婚して新しい家族を持つ
- ② 子どもを持つ
- ③ 家族でコミュニケーションがとれている
- ④ 夫婦が共に働く

「家族」に関する主な要素を高める政策の方向性

- ・結婚や出産を応援する仕組みづくり
- ・仕事と育児が両立できる雇用環境づくり
- ・家族がともに過ごす時間を伸ばす仕組みづくり など

《参考統計》

- ①結婚率 [算出方法:50歳時に結婚したことがない人÷50歳人口] <国勢調査(総務省)を基にした人口統計資料(国立社会保障・人口問題研究所)から独自集計>
- ②合計特殊出生率 [算出方法:母の年齢別出生数÷年齢別女子人口15歳から49歳までの合計] <人口動態調査(厚生労働省)>
- ③子どもの家族交流率 [算出方法:「家族と学校での出来事について話をする」「家族と夕食を一緒に食べる」「家の手伝いをしていると回答した小中学生÷回答者数] <全国学力・学習状況調査等(文部科学省)から独自集計>
- ④共働き世帯割合 [算出方法:共働き世帯数÷一般世帯数] <国勢調査(総務省)>

健康

子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らしていけることが、人々の「希望」につながる

「健康」に関する主な要素

- ① 病気やけがなどがなく健康である
- ② 健康に長生きできる
- ③ 健康の維持に努めている
- ④ 子どもの基礎体力が高く元気である

「健康」に関する主な要素を高める政策の方向性

- ・日頃の運動促進や食生活の改善
- ・医療水準の向上や介護予防
- ・健康診断やがん検診の受診促進
- ・子どもの体力づくり など

《参考統計》

- ①健康実感率 [算出方法:病気やけが等で自覚症状がある人÷人口総数] <国民生活基礎調査(厚生労働省)から独自集計>
- ②自立調整健康寿命 <独立行政法人福祉医療機構算定>
- ③健康診断受診率 [算出方法:検診受診者÷20歳以上世帯人数] <国民生活基礎調査(厚生労働省)>
- ④子どもの体力 <全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)>

教育

学力や教養、社会性や挑戦力などを身につけ伸ばすことが、
人々の「希望」につながる

「教育」に関する主な要素

- ① 子どもの学力が高い
- ② 子どもの道徳心や社会性が高い
- ③ 子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している
- ④ 大学等の高等教育機関で学ぶ

「教育」に関する主な要素を高める政策の方向性

- ・子どもの学力や道徳心などを高める教育環境の充実
- ・高等教育機関への進学推進 など

《参考統計》

- ①子どもの学力 [算出方法:小学6年生の国語・算数の正答率の合計、中学3年生の国語・数学の正答率の合計]
<全国学力・学習状況調査等(文部科学省)から独自集計>
- ②子どもの道徳心・社会性 [算出方法:「人が困っているときに進んで助ける」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小中学生÷回答者数] <全国学力・学習状況調査等(文部科学省)から独自集計>
- ③子どもの夢・希望・挑戦力 [算出方法:「将来の夢や目標を持っている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」と回答した小中学生÷回答者数]
<全国学力・学習状況調査等(文部科学省)から独自集計>
- ④大学等進学率 [算出方法:各都道府県内の高等学校卒業者のうち大学・短大入学者数÷各都道府県内の高等学校卒業者数]
<学校基本調査(文部科学省)>

地域・交流

地域に魅力(誇り)を感じ、社会貢献活動や地域活動などを通じて、地域や他者とのつながりを持つことが、人々の「希望」につながる

「地域・交流」に関する主な要素

- ① 社会貢献活動に参加している
- ② 子どもが地域行事に参加している
- ③ 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している
- ④ 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である

「地域・交流」に関する主な要素を高める政策の方向性

- ・社会貢献活動や地域活動への参加促進
- ・ふるさと固有の資源の維持・活用
- ・地域を支える人づくり
- ・地域ぐるみの防犯活動や交通安全運動 など

《参考統計》

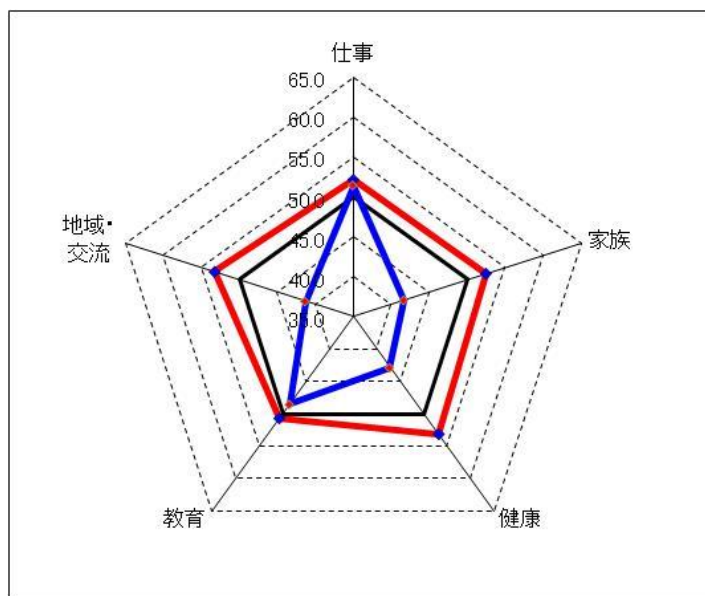
- ① ボランティア活動の年間行動者率 [算出方法:ボランティア活動実施者÷15歳以上人口] <社会生活基本調査(総務省)>
- ② 子どもの地域行事への参加率 [算出方法:「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小中学生÷回答者数]
<全国学力・学習状況調査等(文部科学省)から独自集計>
- ③ 交際時間(65歳以上) [算出方法:交際・付き合いの1日当たりの平均時間] <社会生活基本調査(総務省)>
- ④ 地域の安全・安心 [算出方法:刑法犯認知件数、交通事故発生件数、出火件数÷人口総数]
<犯罪統計、交通統計(総務省)、火災年報統計(総務省消防庁)>

ふるさと希望指数(LHI) ～参考統計～

2 詳説

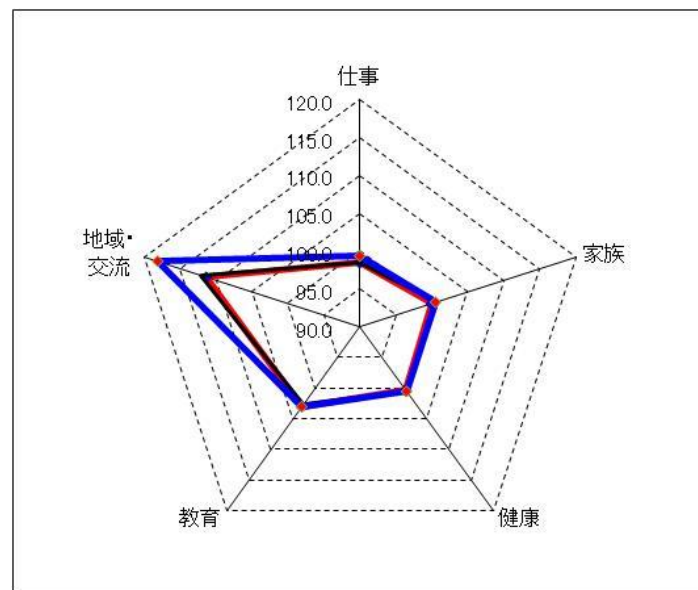
(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

統計数値(現状) ※偏差値



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
ふるさと11県	52.2	52.4	53.2	50.7	53.2
三大都市	51.4	41.7	42.8	48.5	41.3
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
ふるさと11県	98.6	100.0	100.3	103.0	111.4
三大都市	99.4	100.6	100.6	103.1	118.1
全国平均	98.5	100.8	100.4	102.7	112.0

統計数値(偏差値)では、「仕事」、「家族」、「健康」、「教育」、「地域・交流」のいずれの分野においても、地方※が三大都市および全国平均を上回っている。

現在の数値の比較だけでなく、複眼的な視点から、基準年(原則3年前)からの変動を変化率として示すと、「仕事」以外の分野は、いずれも基準年よりも伸びており、いずれの分野も、三大都市が地方を上回っている。

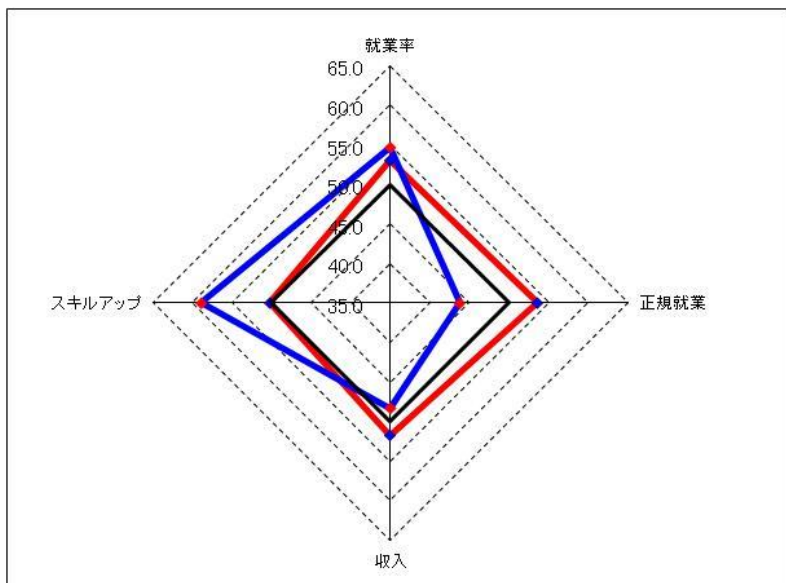
※地方は「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」に参加する11県

2 詳説

(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

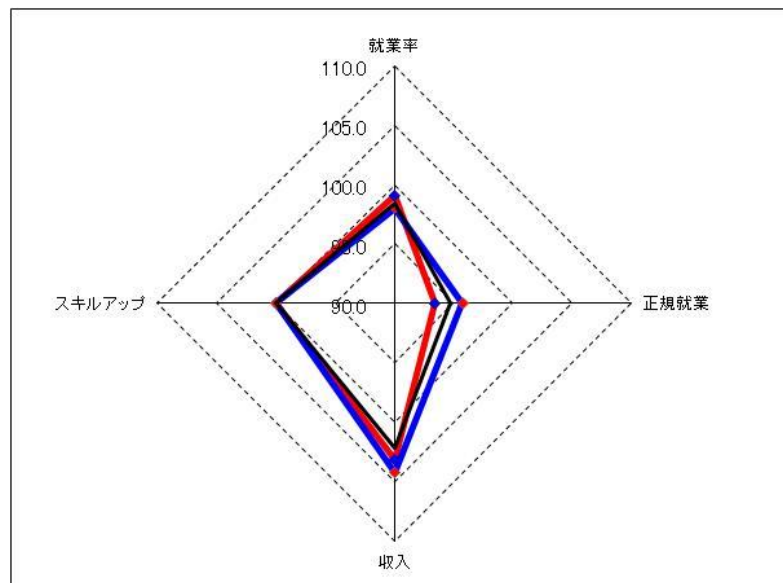
<仕事>

統計数値(現状) ※偏差値



	就業率	正規就業	収入	スキルアップ
ふるさと11県	53.0	53.6	51.7	50.2
三大都市	54.7	43.7	48.3	58.9
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0

統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化



	就業率	正規就業	収入	スキルアップ
ふるさと11県	99.1	93.4	103.2	100.0
三大都市	98.0	95.8	104.2	100.0
全国平均	98.4	94.7	102.2	100.0

※スキルアップについては、平成19年度調査のみのデータであり、変化率なし

「仕事」に関する主な要素

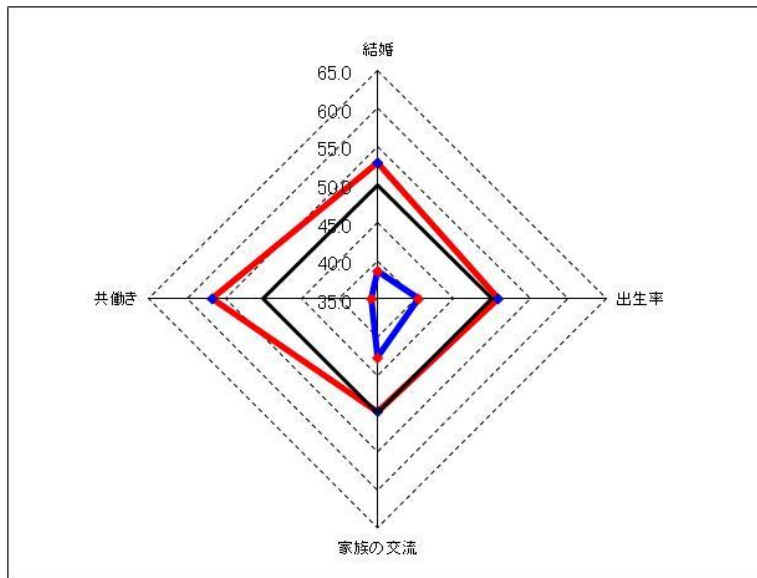
- ① 就業している（就業率）
- ② 正規の職員・従業員として働いている（正規就業者率）
- ③ 世帯当たりの収入が高い（実収入[勤労者1世帯当たり1か月]）
- ④ 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている（職業訓練・自己啓発実施率）

2 詳説

(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

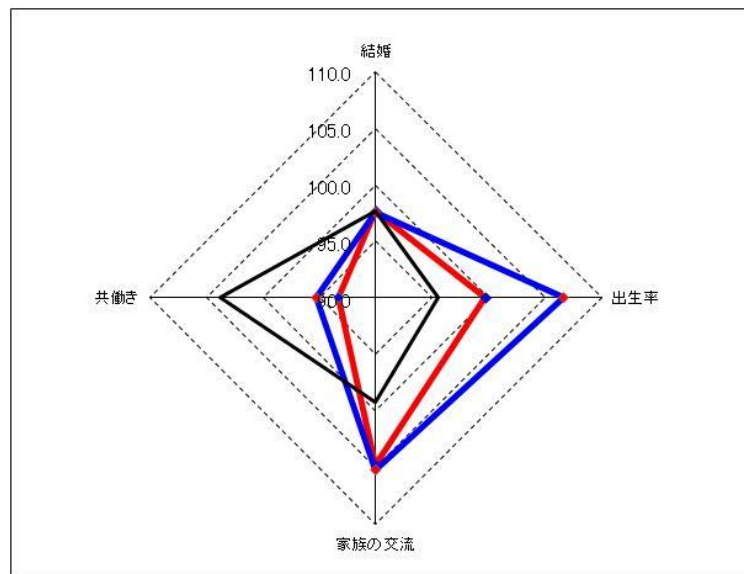
< 家族 >

統計数値(現状) ※偏差値



	結婚	出生率	家族の交流	共働き
地方(11県)	52.9	50.8	49.8	56.8
三大都市	38.6	40.3	42.7	35.8
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0

統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化



	結婚	出生率	家族の交流	共働き
地方(11県)	97.6	99.7	104.8	93.3
三大都市	97.5	106.6	105.2	95.2
全国平均	97.7	95.5	99.2	103.8

「家族」に関する主な要素

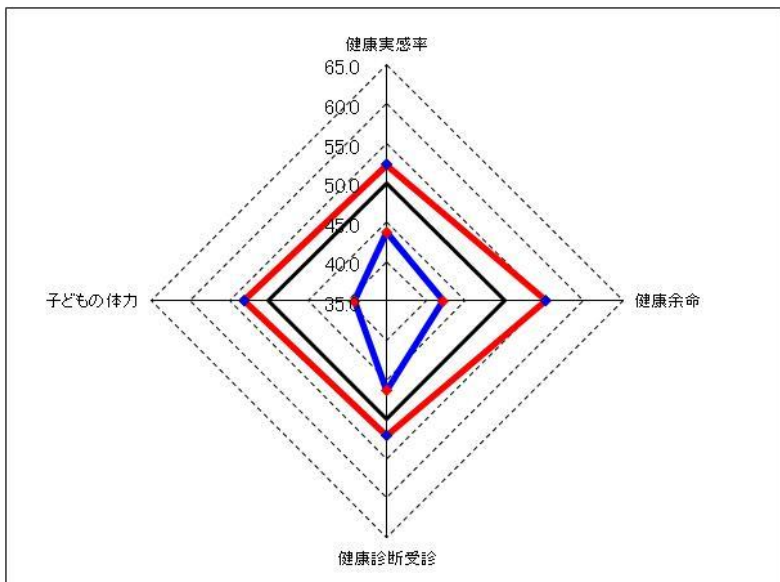
- ① 結婚して新しい家族を持つ (結婚率)
- ② 子どもを持つ (合計特殊出生率)
- ③ 家族でコミュニケーションがとれている (子どもの家族交流率)
- ④ 夫婦が共に働く (共働き世帯割合)

2 詳説

(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

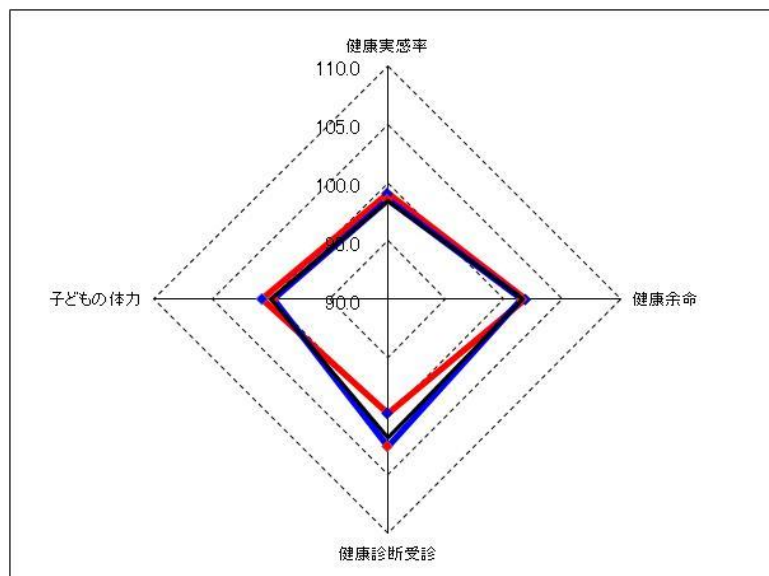
<健康>

統計数値(現状) ※偏差値



	健康実感率	健康余命	健康診断受診	子どもの体力
地方(11県)	52.3	55.2	52.1	53.1
三大都市	43.7	42.2	46.3	39.1
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0

統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化



	健康実感率	健康余命	健康診断受診	子どもの体力
地方(11県)	99.1	101.8	99.7	100.7
三大都市	98.5	101.5	102.6	99.7
全国平均	98.4	101.6	101.8	99.9

「健康」に関する主な要素

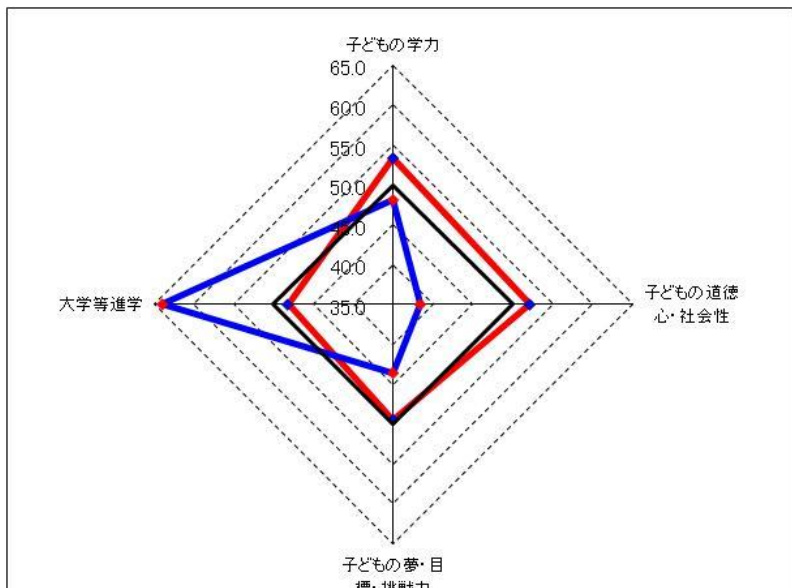
- ① 病気やけがなどがなく健康である (健康実感率)
- ② 健康に長生きできる (自立調整健康寿命)
- ③ 健康の維持に努めている (健康診断受診率)
- ④ 子どもの基礎体力が高く元気である (子どもの体力)

2 詳説

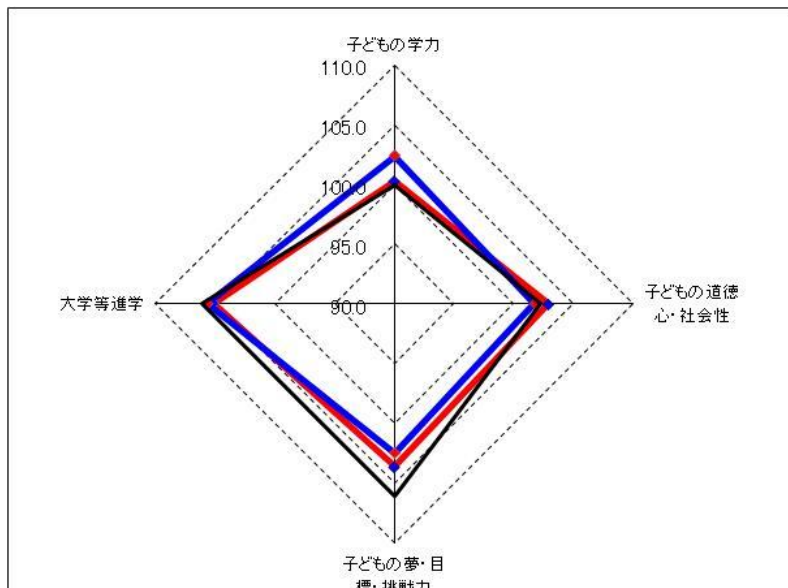
(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

<教育>

統計数値(現状) ※偏差値



統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化



	子どもの学力	子どもの道徳心・社会性	子どもの夢・目標・挑戦力	大学等進学
地方(11県)	53.3	52.1	49.4	48.2
三大都市	48.1	38.4	43.6	63.9
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0

	子どもの学力	子どもの道徳心・社会性	子どもの夢・目標・挑戦力	大学等進学
地方(11県)	100.3	102.9	103.6	105.1
三大都市	102.4	101.8	102.5	105.7
全国平均	100.0	102.2	106.1	106.1

「教育」に関する主要要素

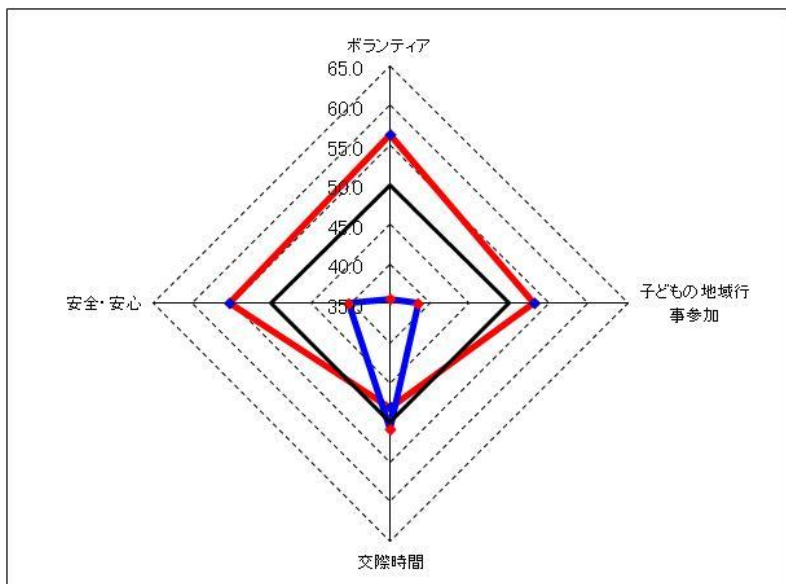
- ① 子どもの学力が高い (子どもの学力)
- ② 子どもの道徳心や社会性が高い (子どもの道徳心・社会性)
- ③ 子どもの夢や目標を持って物事に挑戦している (子どもの夢・希望・挑戦力)
- ④ 大学等の高等教育機関で学ぶ (大学等進学率)

2 詳説

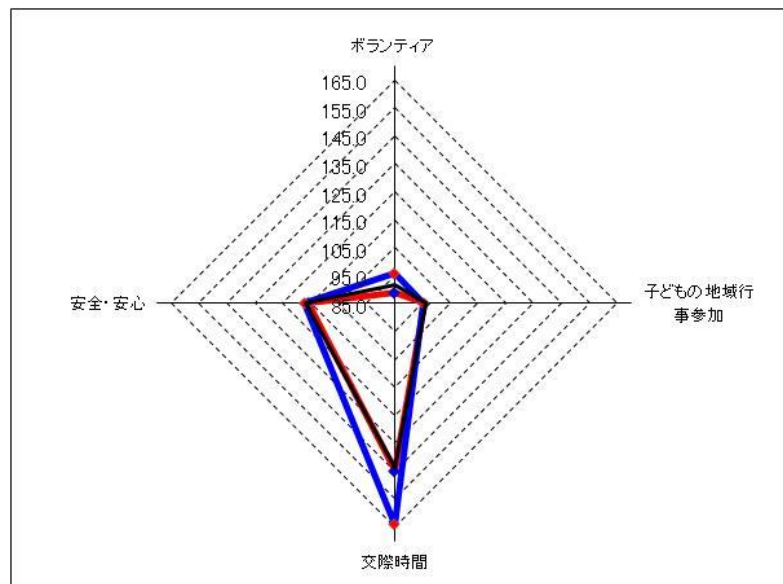
(3)ふるさと希望指数(LHI) ～ 参考統計 ～

<地域・交流>

統計数値(現状) ※偏差値



統計数値(変化率) ※基準年を100として原則3年間の変化

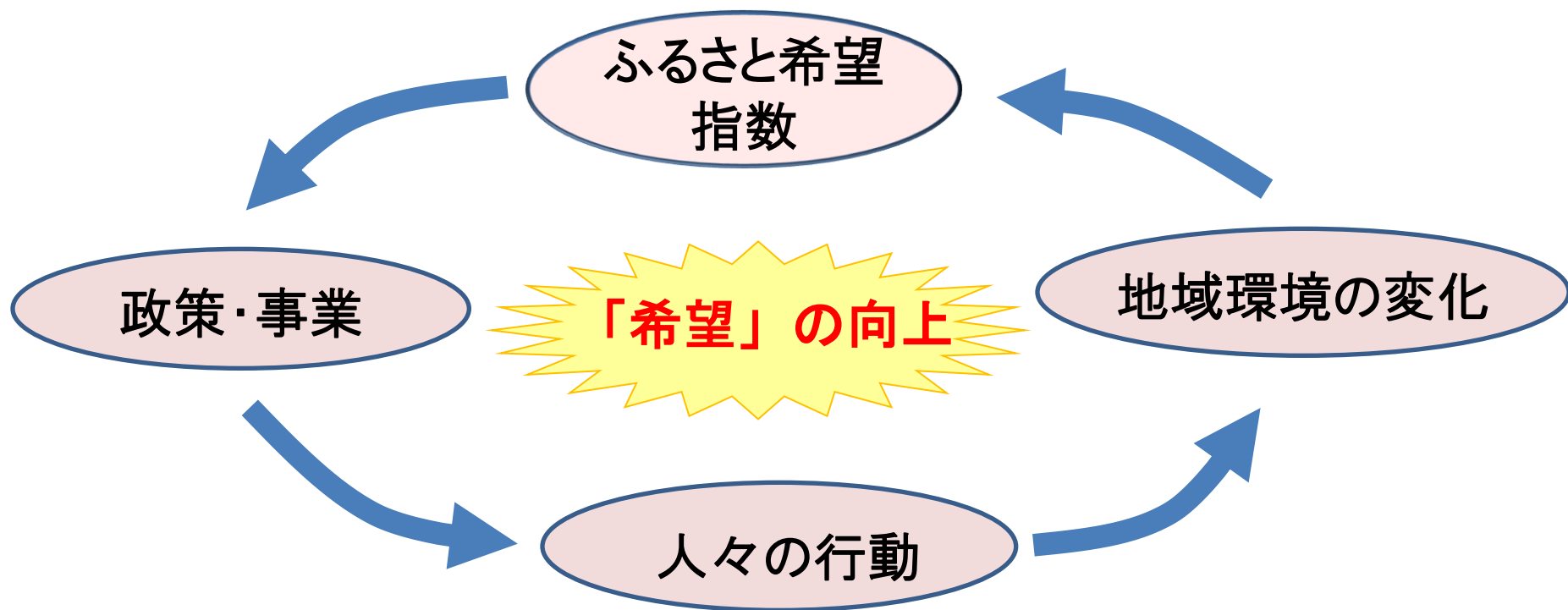


	ボランティア	子どもの地域行事参加	交際時間	安全・安心
地方(11県)	56.3	53.2	48.2	55.3
三大都市	35.6	38.5	50.9	40.3
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0

	ボランティア	子どもの地域行事参加	交際時間	安全・安心
地方(11県)	88.9	95.8	144.7	116.0
三大都市	95.7	95.5	164.1	117.2
全国平均	91.6	96.4	143.5	116.8

「地域・交流」に関する主な要素

- ① 社会貢献活動に参加している（ボランティア活動の年間行動者率）
- ② 子どもが地域行事に参加している（子どもの地域行事への参加率）
- ③ 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している（交際時間(65歳以上)）
- ④ 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である（地域の安全・安心）



働く、楽しむ、保つ、向上する、助け合う

希望の『政策バンク』(仮称)

